

令和8年度3学期終業式 校長式辞



本日で、令和8年度の3学期、そして1年間の学校生活が終了します。

この1年を振り返り、皆さんはどのような時間を過ごしてきたでしょうか、学習や部活動、学校行事、人との出会いなど、うまくいったこともあれば、悩みや失敗を経験した人もいます。しかし、そのすべてが、皆さんを確実に成長させてきました。その様子はここから皆さんの顔を見ればよくわかります。

さて、今日は、1年間の締めくくりとして、「ありがとうを伝えることの大切さ」についてお話しします。

皆さんは、「ありがとう」という言葉を、どれくらい意識して使っていますか。感謝の気持ちは心の中にあっても、忙しさや照れくささから、言葉にしないまま過ぎてしまうことも多いのではないのでしょうか。

今日みなさんが学校に来るまでには、いろいろな行動をしています。朝、起きる。着替える、朝食をとる、歯を磨く、自転車に乗る。電車・バスにのる。学校まで歩く。昇降口で上履きに履き替える。教室に行く。実際にはもっとたくさんのことを行っています。

ところで、このような行動は、改めて考えてみると、自分だけではできないことがほとんどです。朝起きられたのは、眠る場所があったから。替えられたのは、着替えがあったからです。朝食をとれたのは食べるものがあったからです。それらは、自分が作ったり、用意したりしたものでしょうか。履いた靴は自分がつくったものでしょうか。乗った自転車や電車・バスは、歩いてきた道もちろん自分で作ったものではありません。こんなふうに考えると、当たり前だと思っていたことも、少しも当たり前ではないことに気づくのではないのでしょうか?それは当たり前ではなく、反対にありがたいことなのです。でも、私たちは普段はそのありがたいことにほとんど気づきません。だから、たまに気づいたときは、そういうことをしてくれる人に感謝の気持ちを伝えてみてはどうでしょうか。口に出して言うのは照れくさいかもしれませんが、感謝の気持ちは思っているだけではなく、言葉にしないと伝わりにくいものです。これは訳あって、本当の両親ではない人に育ててもらった娘さんの話です。仮にその人をAさんとしましょう。Aさんは、小さい頃はなかなか新しいお父さんに懐くことができませんでした。Aさんのお父さんは船乗りで、1年のうち40日ぐらいしか家にいなかったからです。でもある時から、Aさんは自分を育ててくれたお父さんへの感謝の気持ちが高まり、いつか「ありがとう」と伝えたいと思うようになりました。しかし、なかなか言えない中、ある日ついに決心して言おうとしたら、今度はお父さんから「言わなくていいよ」と言われてしまいました。そして月日は流れ、Aさんは結婚することになりました。結婚する日の前の晩に、Aさんは今度こそ絶対言おうと思っていたのですが、お父さんは照れくさかったのか「何も言わなくていいから早く寝なさい」と言ったそうです。結局Aさんはお父さんに「ありがとう」を言えないままでした。そしてお父さんはその10年後に亡くなってしまったのだそうです。Aさんは今でも「とうとう言葉に出してありがとうを言えなかった」ことを後悔しているのだそうです。

「ありがとう」と言葉に出して言うことは、誰でもできる簡単なことです。簡単なことだから、いつでも言えると私たちは思ってしまいます。いつでも言えるからいいやとも思ってしまいます。そうすると、だんだんと「ありがとう」を言う機会が失われていくのです。きちんと言葉にして「ありがとう」を伝えるのは照れくさいものですが、思い立った時に、ひと言「ありがとう」と伝えてみてはどうですか。いつもは言わない「ありがとう」、いつもは言えない「ありがとう」を、今日から、家族や友人。いろんな人に言葉にして伝えてみてください。

最後に、明日から春休みです。気持ちも体も大切に過ごし、全員が元気に4月の新学期に学校に来ることを願って挨拶とします。

